

令和6年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(令和5年度対象)

令和6年11月

深谷市教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の目的	1
3	点検評価の対象及び方法	2
4	第3期深谷市教育振興基本計画の施策体系	3
5	点検評価表及び最重点事業評価表、重点事業評価表	
I 確かな学力と自立する力の育成		
(1)	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	4
(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	6
(3)	郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	8
(4)	時代の変化に対応する教育の推進	10
(5)	夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	12
(6)	多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	14
II 豊かな心と健やかな体の育成		
(1)	まごころと思いやりを育む教育の推進	16
(2)	いじめ・不登校の防止	18
(3)	生徒指導の充実	20
(4)	人権を尊重した教育の推進	22
(5)	健康の保持増進	24
(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	26
III 地域に信頼される学校教育の推進		
(1)	信頼される教職員の育成	28
(2)	学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	30
(3)	子供たちの安全・安心の確保	32
(4)	学習環境の整備・充実	34

IV	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	
(1)	家庭の教育力向上に向けた支援	36
(2)	家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備	38
V	生涯学習の推進	
(1)	市民のニーズに応える生涯学習の支援	40
(2)	生涯学習施設の整備・充実	42
(3)	図書館サービスの充実	44
VI	スポーツ・レクリエーションの推進	
(1)	多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	46
(2)	生涯スポーツの推進	48
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	50
VII	郷土の歴史・文化の継承と活用	
(1)	郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	52
(2)	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	54
(3)	文化芸術活動の振興	56
6	意見・提言のまとめ	58
7	むすびに	63

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、全ての教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見の活用を図り、点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、深谷市教育委員会が決定する立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「第3期深谷市教育振興基本計画」という。）に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックをし、市議会に報告するものです。これにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、令和5年3月に策定された第3期深谷市教育振興基本計画に位置づけられています。

このため、第3期深谷市教育振興基本計画に位置づけられた27施策（中項目）を評価単位として、令和5年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「S A B C」評価とし、区分の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、第3期深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、令和3年度からの実績値の推移を成果指標の評価で表しました。

また、各点検評価表に最重点事業評価表及び重点事業評価表を添付し、各施策における令和5年度の重点事業及び評価を示しています。

さらに、教育委員及び教育に関し学識を有する方（以下「学識経験者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとにまとめ、巻末に「意見・提言表」に示しています。

4 第3期深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)		
			関連課	
I 確かな学力と自立する力の育成	1 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	教育総務課	教育施設課 学校教育課	1
	2 未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	—	2
	3 郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	学校教育課	—	3
	4 時代の変化に対応する教育の推進	学校教育課	—	4
	5 夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	学校教育課	—	5
	6 多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	—	6
II 豊かな心と健やかな体の育成	1 まごころと思いやりを育む教育の推進	学校教育課	—	7
	2 いじめ・不登校の防止	学校教育課	—	8
	3 生徒指導の充実	学校教育課	—	9
	4 人権を尊重した教育の推進	学校教育課	—	10
	5 健康の保持増進	学校教育課	教育総務課	11
	6 体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	生涯学習スポーツ振興課	12
III 地域に信頼される学校教育の推進	1 信頼される教職員の育成	学校教育課	—	13
	2 学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	学校教育課	生涯学習スポーツ振興課	14
	3 子供たちの安全・安心の確保	学校教育課	—	15
	4 学習環境の整備・充実	教育施設課	教育総務課 学校教育課	16
IV 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1 家庭の教育力向上に向けた支援	生涯学習スポーツ振興課	—	17
	2 家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課	18
V 生涯学習の推進	1 市民のニーズに応える生涯学習の支援	生涯学習スポーツ振興課	—	19
	2 生涯学習施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	図書館	20
	3 図書館サービスの充実	図書館	—	21
VI スポーツ・レクリエーションの推進	1 多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	生涯学習スポーツ振興課	—	22
	2 生涯スポーツの推進	生涯学習スポーツ振興課	—	23
	3 スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	—	24
VII 郷土の歴史・文化の継承と活用	1 郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	文化振興課	渋沢栄一記念館	25
	2 深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	文化振興課	—	26
	3 文化芸術活動の振興	文化振興課	—	27

5 点検評価結果

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成				I-1			
施策名	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進			点検評価表 作成課	教育総務課		
施策の方向性	<p>○市立幼稚園を再編し、質の高い幼児教育を推進する。</p> <p>○幼児の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り、小学校とのなめらかな接続を推進する。</p> <p>○深谷東子育て支援センターなどを拠点とした、未就学児に対しての子育て支援を推進する。</p>						
施策に関連する 主な取組	<p>○質の高い幼児教育の推進</p> <p>○特別支援教育等の体制整備</p> <p>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進</p> <p>○深谷東子育て支援センターを活用した子育て支援の充実</p>						
指標名	幼稚園教諭に対して行う研修の回数						
指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
成果指標 幼児教育の推進にとって重要な役割を担う幼稚園教諭に対して市教育委員会が実施する研修の回数	10回	12回	12回	-	-	-	12回
	基準値 (令和3年度)		10回	➡		目標値 (令和9年度)	
成果指標の 評価	<p>1</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
課題	・市内の幼児の数が減少傾向にある中で、質の高い幼児教育を効率的に提供する必要がある。						
評価コメント	・幼稚園教諭に対して研修を実施し、質の高い幼児教育が提供できるよう、教諭の資質向上を図ることができている。						
総合評価	<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	幼稚園・こども館複合施設(幼稚園)の建設	担当課	教育施設課
概要	(仮称)深谷市立こども館と複合化される新設幼稚園を建設するため、設計業務を行う。		
令和5年度 の実績	【要求事項を正確に反映した設計図書の作成】 受注者と綿密に打ち合わせを行い、複合施設に対する市の要求事項を正確に反映した設計図書を作成する。 ○定例打合せ会16回実施 ○分科会21回実施 ○模型、パースによる説明会実施		
	【各種法令に適合した設計図書の作成】 設計図書について各種法令の適合性を確認するため、法令に基づく許可の取得及び届出、申請を行う。 OR6. 3. 18ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例への適合 OR6. 3. 28建築基準法第48条但し書き許可の取得 OR6. 3. 29建築基準法第6条建築確認の申請 OR6. 3. 29契約約款第32条完了検査の合格		
	指標名	実績値	指標別コメント
	新設幼稚園の設計業務の完了	100%	関係課と調整を図りながら、履行期限内に設計業務を完了させることができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	引き続き、関係課と調整を図りながら、令和8年4月の新設幼稚園の開園に向けて、令和6年度から建設工事を進める。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
特別支援教育等の体制整備	特別な支援を要する幼児への支援等、市立幼稚園として求められる役割を果たすための運営体制の充実を図る。 ○担任補助の人数 10人	担任補助等を任用し、特別な支援を要する幼児に対し十分なサポート体制を整備できた。また、子育てに関する相談を受けた家庭に対し、専門的な知識を有する職員が対応できる体制が整備できた。	教育総務課
幼保小中連携の推進	幼保小中及び家庭や関係機関と連携して、子育ての目安「3つのめばえ」や深谷の子「6つの誓い」などの取組を推進する。 ○令和5年12月20日(水) 参加者38名	特別な配慮が必要な子供の「遊び」についてをテーマに研修を実施し、保育士と幼稚園教諭が共通の理解を図ることができた。	教育総務課
就園前幼児教育支援事業	未就園児の親子等を対象にした子育て相談等の支援を深谷東子育て支援センターなどで行い、子育て支援を充実する。 ○令和5年度利用者数 9,086名	各種事業の実施により、子育てしやすい環境を整備することができた。	教育総務課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-2

施策名		未来を切り拓くための確かな学力の育成				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援する。 ○全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「令和の日本型学校教育」を推進する。									
	施策に関連する 主な取組	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ○きめ細やかで質の高い指導の充実				○教育研究所の資源活用				
指標名	全国学力・学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合									
成果指標	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
	全国学力・学習状況調査 の正答率において、県平均 を上回った学校の割合	小学校	34.0%	45.0%	34.0%	—	—	—	58.0%	
		中学校	30.0%	35.0%	40.0%	—	—	—	55.0%	
		基準値 (令和3年度)	小学校 34.2%	中学校 30.0%	➔		目標値 (令和9年度)	小学校 58.0%	中学校 55.0%	
成果指標の 評価	3		1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている							
課題	・各学校における学力向上プロジェクトへの更なる取組 ・ころざし深谷教師塾への積極的な参加									
評価コメント	・毎月、市内全小・中学校で学力向上プロジェクト達成率100%を目指し、くり返し問題に取り組み、基礎基本の定着や思考力・判断力を高めることができた。 ・市内県費教職員のべ317名がころざし深谷教師塾に参加し、自らの指導法を振り返り、指導力向上や授業改善に役立てた。									
総合評価	B		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							

最重点事業評価表

最重点事業名	学力調査を活用したPDCAサイクルの確立	担当課	学校教育課	
概要	毎月の学力向上プロジェクトにより、思考力・判断力を高める問題等に取り組み、学習内容の定着を図る。			
令和5年度の実績	<p>【学力向上プロジェクトへの取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教委が、全国学力・学習状況調査の過去問や埼玉県学力・学習状況調査の類似問題から問題を作成・配布し、毎月、市内全小・中学校で取り組む。 ・毎月実施後、各学校が市教委に平均正答率の報告を行う。 <p>○学力調査の一部問題の正答率において、国と比べ市の正答率が14%高い結果であった。</p> <p>○深谷市の児童生徒の学力層において、学力下位層が減り、学力中位層が増加している。</p> <p>【学力調査結果をもとにした研修等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校での学力調査の結果分析方法について指導を行う。 ・深谷市学力向上担当者会議を年3回実施し、学力調査結果の分析・活用方法や学力向上に向けた良い取組を周知する。 ・各学校の学力向上に向けた取組について見届けを行う。 <p>○年2回の研修計画・実施報告の見届け</p> <p>○深谷市学力向上担当者会議を年3回実施</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		全国学力・学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合	小学校34.2% 中学校40.0%	小学校では、前年度の実績値より下回ってしまったが、中学校においては、令和3年度の実績値から上昇傾向となっている。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	小・中学校ともに成果指標は目標値を下回り、深谷市の正答率は、国や県と比べ、ほぼ同等かやや下回っている状況であった。しかし、中学校数学では、確実に国・県の正答率に近づいており、学力向上プロジェクトを中心とした学力向上に向けた施策の結果の表れであると捉えることができる。したがって、総合評価は「ほぼ計画どおり」とし、引き続き学力向上に努める。		
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
中学生検定サポート事業	<p>生徒の学習意欲を高めるための英検や数検の費用を補助し、学力向上を図る。</p> <p>○英検3級以上取得率41%、数検4級以上相当取得率44%</p>	<p>生徒自身がこれまでの学習内容・技術がどこまで身についているかを把握でき、積極的に高いレベルの級にも挑戦しており、意欲を高めることができた。</p>	学校教育課
授業力の向上	<p>教育公務員特例法に基づく研修のあり方を見据え、教員の資質・能力の向上を図るため、「こころざし深谷教師塾」において、力量の高い教員の授業から指導法を学ぶ機会を充実させる。</p> <p>○市内県費教職員のべ317名の参加</p>	<p>市内県費教職員の約半数にあたる教員が研修に参加し、自らの指導法を振り返り、授業改善・授業力向上に役立てることができた。</p>	学校教育課
学習支援員等の充実	<p>小学校に専科指導教員として教科支援エキスパートを、小中学校に学習支援員を配置し、学力向上を推進する。</p> <p>○小学校教科支援エキスパートの配置校数19校中19校配置(100%)</p>	<p>小学校教科支援エキスパートは、学習指導の面でも生徒指導の面でも必要である。</p>	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-3

<p>施策名</p> <p>郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○伝統と文化を尊重し、日本人としての誇りを持ち、我が国と郷土深谷を愛する態度を養う。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校の外国語の授業を充実させるため、地域人材を活用するなど、質の高い外国語教育を推進する。また、中学校の英語教育の充実を図る。 ○帰国・外国人児童生徒などへの日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行う。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○伝統と文化を尊重する教育の推進 ○国際性を育む教育の推進 ○小学校段階からの質の高い外国語教育の推進 ○帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実</p>						
<p>指標名</p>		<p>英語検定3級以上取得率(中学3年生)</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>英語検定3級以上を取得した市内公立中学 3年生の割合</p>		<p>43.6%</p>	<p>45.6%</p>	<p>41.4%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>50.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>43.6%</p>	<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>5</p> <p>1(順調):目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向):基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい):基準値に対し横ばい 4(悪化傾向):基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調):基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・英語検定の3級以上の取得率 ・前年度と比較し、3級以上取得率 41% 5ポイント減少、3級以上取得者 566人 85人減少、3級以上取得率50%達成校 2校であった。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・英語検定1次対策、2次対策を実施した。1次対策は186名の参加、2次対策は120名の参加であった。 ・ALT を効果的に活用し、授業の中で生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会の充実 ・自分の意見に対し、理由を加えて書く練習の充実 ・ALT を活用した校内二次対策講座の実施 ・深谷市で行っている英検対策講座を継続して開催 ・英検スタディギア(準1級~5級対応)を生徒がオンラインで活用し、学校内外において生徒がそれぞれの学習理解度と進度に応じて学習する。 ・各中学校の担当者を対象に、担当者会議を実施し、英検3級以上取得率の高い学校の取組を市で共有し、各校で活用する。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>B</p> <p>※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	ふるさと教育の推進		担当課	学校教育課
令和5年度 の実績	概要	フォーラムの実施等「ふるさと ふかや・渋沢学」を推進することにより、ふるさとふかやを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。		
	【「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラム】	「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラムを開催し、各校におけるふるさと教育の取組や学びの成果について、共有することができた。 ○来場者数 1,677人 ○来場者満足度 89.5%		
	【ジュニアボランティアガイドの育成】	渋沢栄一翁の顕彰活動を通して、子供たちに地域貢献意識を養い、ふるさとを愛し、次代を担う自覚を持ったジュニアボランティアガイドを育成する。 ○小4～中2で15人 ○12月から7回実施(栄一翁関連施設)		
		指標名	実績値	指標別コメント
	ジュニアボランティアガイド育成人数	15人	ガイド養成講座及びガイドの実施時期を見極めるとともに、多くの観光客等と関わることができるよう実施について検討していく。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	郷土の偉人栄一翁を学んだ子供たちが、論語の里に訪れた見学者への解説員として活動する過程を通して、子供たちに地域貢献意識を養い、ふるさとを愛し、次代を担う自覚を育むことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
国際化教育推進事業	各幼稚園、小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語指導の充実を図り、国際性を育む教育を推進する。 ○全市立幼稚園、小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、幼稚園は月2～4回、小学校1、2年生は月1回程度、小学校3、4年生は週1、小学校5年生～中学校3年生が、週に1・2回、ALTとの授業を受けた。	全市立幼稚園・小・中学校にALTを配置したことで、児童生徒が毎週本物の英語に触れることができた。	学校教育課
外国語指導力向上事業	小学校に英語専科教員や英語アシスタントティーチャー(EAT)を配置し、学習意欲向上や質の高い授業づくりを推進する。 ○小学校(13校)に英語指導助手(EAT)8名を配置した。	児童一人ひとりの個に応じたきめ細やかな学習支援を行うことができた。	学校教育課
日本語指導職員配置事業	帰国・外国人児童生徒の学校生活への適応支援のため、就学相談を行うとともに、日本語指導員による日本語指導の充実を図る。 ○日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(12名)を、小学校14校、中学校7校に配置した。	日本語支援が必要な児童一人ひとりにきめ細やかな学習支援を行うことができた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-4

施策名		時代の変化に対応する教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		<p>○子供たちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成する。</p> <p>○ICT機器を適切に活用し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力やプログラミング的思考を育成するとともに、情報モラルを醸成する。併せて、多様な人たちと協働しながら学ぶことで主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p> <p>○SDGsをはじめ、新たな社会的課題等に対応できる人材の育成に向けた教育を推進する。</p>							
施策に関連する 主な取組		○科学技術教育の推進				○情報教育の推進			
		○新たな社会的課題等に対応する教育の充実							
指標名		授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標	国の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、「授業中にICTを活用して指導することができる」の調査項目に「わりができる」「ややできる」と回答した割合	小学校	92.2%	89.0%	96.0%	—	—	—	100.0%
		中学校	76.8%	81.0%	93.0%	—	—	—	100.0%
		基準値 (令和3年度)	小学校	92.2%	➔		目標値 (令和9年度)	小学校	100.0%
		中学校	76.8%	中学校			100.0%		
成果指標の 評価	1	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p> <p>2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある</p> <p>3(横ばい): 基準値に対し横ばい</p> <p>4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある</p> <p>5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>							
課題	・授業でICTを活用した場面が増えており、多くの授業でタブレット端末等を活用した授業が行われているが、教職員による差がある。								
評価コメント	・ICTを活用した指導力に関して、高い水準を維持しており、一人一台端末の日常的な利活用が進められている。								
総合評価	A	<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>							

最重点事業評価表

最重点事業名	渋沢 spirit in ふかや GIGAスクールの充実		担当課	学校教育課
概要	1人1台学習者用端末を文具のように用いた新しい令和の学びの推進、充実を図る。			
令和5年度 の実績	【情報教育の推進】 GIGAスクール構想に伴い児童生徒一人1台学習用端末とネットワーク環境の保守・整備を行った。 ○平時の授業における端末の利活用状況について「ほぼ毎日」の割合が、小学校84. 2%、中学校50. 0%			
	【社会的課題に対応する教育の充実】 全市立小・中学校において、指導要録と出席簿の電子化を実施した。 小・中学校の教職員を対象として、タブレットの操作・活用についての研修を行った。 ○指導要録と出席簿の電子化を実施している学校29校中29校(100%) ○タブレットの操作・活用に関する研修会を年間8回実施			
		指標名	実績値	指標別コメント
	平時の授業における端末の利活用状況について「ほぼ毎日」の割合	小学校84. 2% 中学校50. 0%	実態調査において県の実績値(小学校51. 1%。中学校40. 5%)を大きく上回った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	GIGAスクール構想に伴い、学習指導要領に対応した一人一台端末と大容量高速通信ネットワーク環境の整備に努めた。日常的に学習用端末の利活用が進むよう、推進と保守を適切に行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
理科支援員の配置	<p>小学校の理科授業(特に観察・実験を中心に)を充実させることで、科学への探究心を育む。</p> <p>○市立全小学校に年間30回理科支援員を派遣</p>	理科支援員が観察・実験を中心に理科の授業をサポートすることによって理科の授業の充実が図れている。	学校教育課
SDGsの理念に基づく教育の充実	<p>学校教育全体をとおして、環境教育、福祉教育等、社会的課題の解決に向けた態度育成に努める。</p> <p>○社会科や理科、総合的な学習の時間で扱っている</p>	授業中心に扱っているが、学校研究課題に関連付けて扱う学校も増えてきた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-5

施策名		夢を育み志を実現するキャリア教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	<p>○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。</p> <p>○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、地域・企業などと一体となって、職場での体験活動の充実を図る。</p> <p>○経済的な支援を通じ、意欲と能力のある者が安心して学ぶことができる環境づくりを推進する。</p>									
	施策に関連する 主な取組	<p>○発達段階に応じたキャリア教育の充実</p> <p>○中・高の連携によるキャリア教育の推進</p> <p>○教育における経済的支援の充実</p>								
指標名	「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合									
成果指標	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合	小学校	85.5%	87.8%	89.2%	-	-	-	93.0%	
		中学校	79.7%	77.6%	78.8%	-	-	-	83.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	85.5%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	93.0%	
		中学校	79.7%				中学校	83.0%		
成果指標の 評価	2	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p> <p>2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある</p> <p>3(横ばい): 基準値に対し横ばい</p> <p>4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある</p> <p>5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>								
課題	<p>・小・中学校の各発達段階において、それぞれのキャリア教育の取組が行われているが、小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、工夫して取り組んでいく必要がある。</p> <p>・社会体験チャレンジにおける事業所の確保。</p>									
評価コメント	<p>・小学校18校、中学校10校で、将来に向けての志を立てる取組(1/2成人式や立志式等)を行うことができた。</p> <p>・中学校10校中9校が社会体験チャレンジ事業を実施することができた。未実施の1校は事業所確保の課題から、実施することができなかった。</p>									
総合評価	A	<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>								

最重点事業評価表

最重点事業名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課
概要	職場体験・立志式等を通して、児童生徒の夢や志を育む。			
令和5年度 の実績	<p>【発達段階に応じたキャリア教育の充実】</p> <p>社会科見学等、小学校の各発達段階で社会に向けて視野を広げる活動を実施した。また、小中学校それぞれの発達段階に合わせ、将来を見据え、自分の志を立てるような活動に取り組んだ。</p> <p>○社会科見学等の実施：小学校19校中19校 ○「1/2成人式」(名称変更の学校あり)を19校中18校実施 ○「立志式」(名称変更の学校あり)を10校中10校実施</p> <p>【中・高の連携によるキャリア教育の推進】</p> <p>中高連絡協議会により、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会を開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。</p> <p>○中高連絡協議会の開催回数：4回</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合	小学校89.2% 中学校78.8%	それぞれの発達段階に応じてキャリア教育が行われており、洪沢栄一翁の「立志の精神」に結びつくように意識した指導が行われている。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	今後、小・中学校のさらなる連携を図り、小中一貫の視点を持ち、工夫改善をしていながら、生涯に渡って夢や目標を持てる児童生徒の育成を図っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
校種間のなめらかな 接続	<p>生徒の適切な進路選択や中退防止に向け、中高連絡協議会を実施し、中高の連携強化を図る。</p> <p>○中高連絡協議会の開催回数：4回</p>	中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報や本年度の入試情報について連携を図ることができた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-6

<p>施策名</p> <p>多様なニーズに応じた特別支援教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p> <p>○各学校において、特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する就学相談・教育相談体制を充実する。 ○校種間のなめらかな接続や学年間の引継ぎが図れるよう、3年間をとした個別の教育支援計画や年度内における個別の指導計画の作成に努める。 ○一人一人の教育的ニーズを把握し、通常学級や通級指導教室・特別支援学級に加え、特別支援学校との連携を含めた支援体制の充実を図る。</p>								
<p>施策に関連する 主な取組</p> <p>○特別支援教育体制の充実 ○就学支援・相談の充実 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実</p>								
<p>指標名</p> <p>通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の指導計画の作成率</p>								
<p>指標の説明</p> <p>通級に通っている児童生徒、特別支援学級の弾力的運用で支援をしている児童生徒、発達障害等の診断を受けている児童生徒のうち、個別の指導計画を作成している児童生徒の割合</p>		<p>令和3年度 実績値</p> <p>82.5%</p>	<p>令和4年度 実績値</p> <p>91.9%</p>	<p>令和5年度 実績値</p> <p>92.0%</p>	<p>令和6年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和7年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和8年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和9年度 目標値</p> <p>95.0%</p>
<p>成果指標</p>		<p>基準値 (令和3年度)</p> <p>82.5%</p>		<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p> <p>95.0%</p>		
<p>成果指標の 評価</p> <p>1</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・特別支援教育に関する経験の浅い教員もいるため、特別支援教育コーディネーターを中心に児童生徒の困り感への支援・指導等を含め研修を充実するなど指導力の向上を図る必要がある。 ・障害のある児童生徒一人一人が幼・保、小、中、高となめらかな接続を図れるよう関係間での連携を一層図る必要がある。 ・個別の教育支援計画、教育指導計画について、作成の意図を周知するとともに、支援の充実に活かしていく。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・児童生徒の教育的ニーズに合わせ、多様な学びの場(支援籍学習、通級指導教室など)の整備がなされてきている。 ・幼稚園・保育園への巡回相談や就学前相談を随時実施し、関係諸機関と連携することで、課題のある子供の早期発見・早期支援に繋げることができた。 ・発達支援アドバイザーの学校訪問により、特別支援学級担任の指導力向上に努めることができた。 ・特別支援補助員・インクルーシブ支援員を増員して配置できた。 ・就学支援委員会を年4回、小委員会を2回開催し、児童生徒の適切な就学の場の選択に繋がった。</p>						
<p>総合評価</p> <p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	早期からの就学支援・就学相談の充実	担当課	学校教育課
概要	教育・福祉の連携を生かし、早期からの就学支援・就学相談の充実を図るとともに、ヤングケアラーの現状を把握し、関係部局・機関に繋げるなどの取組を進める。		
令和5年度の実績	【就学支援・相談の充実】 1. 就学支援委員会の開催 4回 2. 巡回相談の実施(幼稚園、保育園、小・中学校) 91回 3. 就学を迎える子供を持つ保護者のつどいの実施 2回 【特別支援教育の視点に立った指導の充実】 1. 特別支援教育コーディネーター研修会の開催 2回 2. 特別支援教育担当者研修会の実施 1回 3. 特別支援補助員・インクルーシブ支援員研修会の実施 1回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	教育的配慮が必要な児童生徒の個別の指導計画作成率	92%	個別の指導計画作成に係る支援により計画的に作成できた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	関係機関と連携を図りながら、幼稚園・保育園からの就学相談・支援を行い教育的ニーズに合わせた適切な就学に繋げることができた。巡回相談や発達支援アドバイザー訪問により、課題のある子供の早期発見や、特別支援教育に関する教員の資質向上に努め、作成率は概ね同水準を維持することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実	個別の支援計画や指導計画を作成し、児童生徒の多様なニーズに応じた学びの実現に向け、通級指導教室の増室など学習環境の整備を図る。 ○通級指導教室教室増設(本郷小と上柴中)及び巡回型(川北小)	教育的ニーズに応じ環境整備ができた。	学校教育課
発達支援アドバイザーによる支援と支援籍学習の推進	発達支援アドバイザーを配置し、特別支援教育の充実や支援籍学習の推進を図るとともに、通常学級にインクルーシブ支援員を配置するなど個々の教育的ニーズに応じた指導を推進する。 ○小学校44回、中学校10回 合計54回	発達支援アドバイザーの訪問により、個別の指導計画作成の助言等を行い、教職員の専門性の向上や特別支援教育の理解を図ることができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-1

<p>施策名 まごころと思いやりを育む教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○特別の教科道德の指導の充実を図るとともに地域の特色を生かした道德教育やふるさと教育を推進する。 ○深谷の子「6つの誓い」の活用や、規律ある態度の調査結果を踏まえ、地域の特色を生かした体験活動の充実を図る。 ○学校における子供たちの豊かな読書活動を推進する。</p>						
<p>施策に関連する主な取組</p>		<p>○道德教育の充実 ○深谷の子「6つの誓い」の推進 ○読書活動の推進</p>						
<p>指標名</p>		<p>深谷の子「6つの誓い」達成率</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>成果指標</p>	<p>「夢に向かって努力する」、「毎日勉強する」、「たくさん挑戦、体験する」、「すすんであいさつする」、「脱いだくつをそろえる」、「心のこもったことばをつかう」の6項目を実践している児童生徒の割合</p>	<p>92.9%</p>	<p>90.6%</p>	<p>91.1%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>95.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>92.9%</p>	<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>95.0%</p>
<p>成果指標の評価</p>		<p>2</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・学校司書研修の充実。また、児童生徒一人当たりの貸出冊数の増加を図り、読書習慣を形成する。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの作文の募集、まごころ訪問を積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。 ・こころざし読本及びふるさと先生の積極的な活用を図ることができた。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	渋沢栄一翁ころごし読本～深谷の心を紡ぐ～の活用	担当課	学校教育課
概要	副読本の活用や「ふるさと先生」を派遣して、ふるさとふかやを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。		
令和5年度 の実績	【道徳教育の充実】 渋沢栄一記念館資料解説員をはじめ、元校長等を「ふるさと先生」として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道徳教育の推進と道徳の時間の充実を図った。 ○「ふるさと先生」活用率 100%(小・中29校)		
	全小・中学校(29校)で「渋沢栄一翁 ころごし読本」をカリキュラムに取り入れて、「渋沢栄一翁 ころごし読本」の積極的な活用を図った。 ○「渋沢栄一翁 ころごし読本」年間指導計画への位置付け 100%		
	指標名	実績値	指標別コメント
「ふるさと先生」活用率	29人	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一翁ころごし読本」の活用により、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	渋沢栄一翁の生き方から学ぶ読本を活用するとともに、次代を担う人材を育成するために、「ふるさと先生」を派遣して、道徳教育の充実に努め、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成した。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
深谷の子「6つの誓い」の推進	深谷の子「6つの誓い」の実践を充実させ、子供たちの学習習慣・生活習慣の形成を支援する。 ○「6つの誓い」の6項目で実践している児童生徒の割合91.9%	「夢に向かって努力する」、「毎日勉強する」、「たくさん挑戦、体験する」、「すすんであいさつする」、「脱いだくつをそろえる」、「心のこもった言葉をつかう」の6項目で実践している児童生徒の割合91.1%で前年度より増加し、学習習慣・生活習慣の確立を図ることができた。	学校教育課
子供読書活動の推進	第3次深谷市子供読書活動推進計画に基づく「ふかや ふれあい 必読書50」の紹介等、子供たちがよい本に触れられる読書活動を支援する。 ○学校司書の配置100%(小・中29校)	学校司書研修会では、優れた取組等を共有することで、学校図書館や読書活動の充実を図ることを意図して、学校司書の取組レポートをもとにした協議や学校図書館の視察研修を実施した。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-2

<p>施策名</p> <p>いじめ・不登校の防止</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○深谷市いじめ問題対策連絡協議会などにおいて、関係機関と連携し、市全体としていじめ防止に取り組む。</p> <p>○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などの充実に努める。</p> <p>○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校種間の連携を深める。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○いじめ対策の推進</p> <p>○不登校対策の推進</p> <p>○小・中・高におけるなめらかな接続の推進</p>						
<p>指標名</p>		<p>不登校児童生徒のうち、様々なかたちで支援を受けることができる割合(小・中学校)</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>成果指標</p>	<p>教育支援センターなど学校外の機関等で相談・指導を受けた、もしくは学校内において養護教諭やスクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた児童生徒の割合</p>	<p>80.9%</p>	<p>72.1%</p>	<p>67.5%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>85.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>80.9%</p>	<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>85.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>5</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>				
<p>課題</p>		<p>・オンラインによる支援の充実や家庭訪問などアウトリーチによるつながり支援を充実させること。</p> <p>・長期欠席や不登校の児童生徒への取組や情報が、支援を必要としている家庭に届いていない現状がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・教育支援センター(いきいきスクール・いきいきナイトスクール)から学校復帰というステップアップの流れが確立してきている。</p> <p>・令和5年度にすべての小中学校に校内支援センター(アプローチルーム)が設置され、つながり支援をより充実させることができている。</p> <p>・深谷市教育・福祉連携推進会議で関係各課が行える長期欠席や不登校傾向の児童生徒への支援等について情報を共有した。また、校長会でも周知することができた。</p> <p>・スクールソーシャルワーカーと連携を図り支援への家庭訪問を行ったり、サービス情報の提供をしたりし、学校内外等の機関等でつなぐことができるようにしている。</p> <p>・成果指標の実績値(割合)が下がっているが、専門的な相談・指導を受けた児童生徒の実人数は増加している。(R3:106人、R4:119人、R5:137人)</p> <p>・新規不登校児童生徒を生じさせない魅力ある学校づくりとともにつながり支援の充実を図っていく。</p> <p>・成果指標の評価は5であるが上記のような取り組みから総合評価をBとした。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>B</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表

最重点事業名	総合的な不登校対策の推進		担当課	学校教育課
概要	アプローチルーム・いきいきスクールなど学校内外の教育支援センターにおいて、不登校児童生徒の居場所づくりや学習保障を推進し、社会的自立に向けた取組を進める。			
令和5年度の実績	【不登校対策の推進】 校内教育支援センター(アプローチルーム)や教育支援センター(いきいきスクール・いきいきナイトスクール)を活用することで、長欠傾向児童生徒や不登校児童生徒の居場所作りや学習保障、つながり支援の充実を図る。また、「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校環境適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を捉え、いじめ・不登校の未然防止につなげる。 ○校内教育支援センターをすべての小中学校に設置 ○学校総合支援員を小学校19名、中学校10名配置			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	不登校児童生徒数	203人	令和4年度より不登校児童生徒数は増加した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	令和4年度より不登校児童生徒数は増加した。不登校傾向にある児童生徒をしっかりと把握し、一人一人のニーズに応じた支援を行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実	いじめ対策に係る条例に基づき、学校・関係機関などが一体となって対応し、深谷市全体でいじめ問題解消への取組を推進する。 ○いじめ問題専門委員会やいじめ問題対策連絡協議会を開催した	いじめの早期発見、早期解決に向けて、様々な学識経験を有する委員の意見を聞くことができた。	学校教育課
校種間のなめらかな接続	児童による中学校体験や、中高連絡協議会による情報共有により、児童生徒が進学に伴い抱える悩みの解消等に努め、校種間の滑らかな接続を推進する。 ○中高連絡協議会として、深谷市寄居町内と熊谷市内それぞれ2回ずつ計4回実施	中高連絡協議会として、深谷市寄居町内と熊谷市内それぞれ2回ずつ計4回行い、中高のなめらかな接続に向けて情報交換をすることができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-3

施策名		生徒指導の充実				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		<p>○組織的な支援をより効果的に行うために、生徒指導・教育相談体制を一層充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進する。</p> <p>○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行う。</p>							
施策に関連する 主な取組		○生徒指導・教育相談体制の充実				○非行・問題行動の防止			
指標名		トラブルに基づく暴力行為の発生件数							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標 小・中学校における児童又は生徒間のトラブルに基づく暴力行為の年間発生件数	小学校	4件	4件	0件	-	-	-	-	
	中学校	3件	8件	2件	-	-	-	-	
	基準値 (令和3年度)	小学校	4件	→	目標値 (令和9年度)		小学校	0件	
	中学校	3件	中学校		0件				
成果指標の 評価	1	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p> <p>2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある</p> <p>3(横ばい): 基準値に対し横ばい</p> <p>4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある</p> <p>5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>							
課題	・各学校において暴力行為根絶を目指し、生徒指導体制を確立させていく必要がある。								
評価コメント	・前年度より減少したが、引き続き各学校において暴力行為根絶を目指し、生徒指導体制を確立させていく必要がある。								
総合評価	A	<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>							

最重点事業評価表

最重点事業名	生徒指導に係る学校訪問の充実		担当課	学校教育課
概要	指導主事、生徒指導担当専門員が全小・中学校を訪問し、支援員や関係機関が一体となって学習面・生活面等の指導体制を充実させられるよう指導・助言を行う。			
令和5年度の実績	【生徒指導に係る学校訪問の充実】 小・中学校における生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における生徒指導の充実を図る。 ○1学期中に全29校の生徒指導訪問を行うことができた。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童生徒の暴力行為の発生件数	2件	暴力行為は減少した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	暴力行為は減少したが、引き続き児童生徒の心の不安に寄り添いながら、支援体制を整えていく必要がある。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
関係機関等との連携	<p>生徒指導推進協議会や学校運営協議会等で、情報の共有や意見交換等を行い、児童生徒の健全育成に取り組む。</p> <p>○警察や高校も招き、生徒指導推進協議会を開催した。</p>	<p>様々な校種で生徒指導上の問題点について話し合うことで、活発な協議を行うことができた。</p>	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-4

<p>施策名 人権を尊重した教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善する。 ○要保護児童対策地域協議会などの関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 ○男女共同参画の視点に立った教育や新たな人権課題に対応した教育などを充実する。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○人権教育推進体制の充実 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ○児童生徒の人権保護に向けた取組の推進 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実</p>						
<p>指標名</p>		<p>人権感覚育成プログラムを活用した研修及び授業をした回数</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>成果指標</p>	<p>全小・中学校を対象とする「人権教育の実践状況に関する調査」で、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施回数。</p>	<p>29回</p>	<p>29回</p>	<p>29回</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>58回</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>29回</p>	<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>58回</p>
<p>成果指標の評価</p>		<p>3</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局と、より一層の連携を図る必要がある。 ・引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することで、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。 ・「人権感覚育成プログラム」を活用した研修や実践は全ての学校で取り組むことができた。 ・全小・中学校(29校)が、児童虐待防止講演会に参加し、研修内容を教職員間で共有するなどし、意識啓発、指導力の向上を図ることができた。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	教職員研修の充実と関係機関との連携		担当課	学校教育課
概要	教職員研修の充実、及び児童虐待・ヤングケアラーに関わる関係部局・機関との連携を強化する。			
令和5年度の実績	<p>【人権教育推進体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市新任、転入教職員研修会の実施 ・ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)の実施 ・児童虐待防止対策の推進 <p>○深谷市新任、転入教職員研修会を夏季休業中に実施した。</p> <p>○ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)で実施した。</p> <p>○児童虐待防止対策に関する講演会を実施した。</p> <p>【ヤングケアラー支援体制の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校6年生、中学校1年生を対象にヤングケアラーに関する実態調査の実施 <p>○ヤングケアラーに関する実態調査を実施し、関係諸機関との連携を進め、必要に応じて福祉部門と繋げる体制を整えた。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「人権感覚育成プログラム」の活用	市内29校中29校	人権感覚育成プログラムを活用した授業、校内研修を、全小中学校(29校)で実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員を対象として人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、教職員の人権感覚を育成することができた。各種研修を受けて、人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図り、児童生徒に人権感覚を育成していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
「人権感覚育成プログラム」の活用	<p>「人権感覚育成プログラム」を通して、LGBTQなどの現代的な課題を含め、人権に関する諸課題に関する教育の充実を図り、多文化共生社会の視点に立った教育を推進する。</p> <p>○「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ(LGBTQ)」に関する研修、人権感覚育成プログラムを活用した研修を行った。</p>	「人権感覚育成プログラム」を活用した研修や実践は令和4年度に続き、令和5年度も全ての学校で取り組むことができた。	学校教育課
学校における男女共同参画の視点に立った教育の推進	<p>深谷市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画の視点に立った教育を推進する。</p> <p>○男女混合の名簿の使用等、男女共同参画への環境整備を行った。</p>	男女共同参画の視点に立った人権研修や取組は令和4年度に続き、令和5年度も全ての学校で取り組むことができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-5

施策名		健康の保持増進			点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	<p>○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭と地域の医療機関などの関係機関が連携して、組織的に学校保健活動の充実を図る。</p> <p>○朝食の欠食解消や学校給食の充実など、学校・家庭・地域が連携して食育を推進することで、児童生徒自らが、食を通して健やかな体の育成を図るとともに、食品ロスの軽減に繋げる。</p> <p>○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの今日的な課題に対応する教育を推進する。</p>								
	施策に関連する 主な取組	○学校保健の充実							
		○学校給食の充実							
		○食育の充実							
		○性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進							
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標	全児童生徒を対象とする『生活習慣・深谷の子6つの誓い』に関する調査から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校	92.6%	93.9%	92.8%	—	—	—	95.0%
		中学校	84.5%	87.6%	86.5%	—	—	—	93.0%
		基準値 (令和3年度)	小学校	92.6%	➔		目標値 (令和9年度)	小学校	95.0%
			中学校	84.5%			中学校	93.0%	
成果指標の 評価	4	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p> <p>2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある</p> <p>3(横ばい): 基準値に対し横ばい</p> <p>4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある</p> <p>5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>							
課題	<p>・朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を引き続き考えていく必要がある。</p>								
評価コメント	<p>・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校(29校)で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校(29校)で年1回以上実施することができた。</p> <p>・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む。)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。</p> <p>・全小・中学校(29校)で薬物乱用防止教室を実施することができた。</p> <p>・季節の行事に合わせた給食や渋沢栄一翁給食などを提供し、ふるさと教育と関連付けて食育の推進を図った。</p>								
総合評価	A	<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>							

最重点事業評価表

最重点事業名	地産地消の推進	担当課	教育総務課
概要	地元農家や農業団体等と連携し、地元産の野菜を取り入れた給食を提供し、地産地消の推進を図る。		
令和5年度の実績	【地場産農産物の活用】 小・中学校及び幼稚園において、積極的に地場産物の購入に努めるとともに、地場産物を活用した献立作成を実施した。 ○ふかや園芸協会から地場産物の無償提供を受け、献立作成を実施。 ○主食の米について、100%深谷市産米を使用		
	【学校給食費の補助】 物価高騰による食材費の価格高騰に対応するため、市費にて学校給食費の補助を実施した。 ○小学生1人当たり400円/月、中学生1人当たり500円/月の補助		
	指標名	実績値	指標別コメント
国調査の学校給食における地場産物・国産物の使用状況調査における地場産物(県内)の割合	54.16%	前年度の現状地を向上することができた。(令和4年度実績値48.2%)	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	学校給食については、限られた予算の中で献立を作成しなければならないため、メニューや価格により県外産、外国産のものを使用せざるを得ない状況もある。しかし、できる限り地場産物の活用率が高まるよう、学校給食献立研究会等で学校栄養士とも共有し、地場産物を活かした献立作成に努めた。 また、物価高騰に伴う食材費の価格高騰に対応するため、給食費の一部補助を実施した。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
食育の推進と朝食欠食の解消	学校と緊密に連携して食育を推進し、朝食欠食の解消や望ましい食習慣を身に付けさせる。 ○朝食を毎日食べている児童生徒の割合 小学校:92.8% 中学校:86.5%	食育月間を中心に各学校で食育の充実を図る取組を工夫して行った。また、栄養教諭等を中心に、食に関する指導の充実を図ることができた。	学校教育課
指導体制の充実	外部指導者を活用するなど、性に関する指導や薬物乱用防止教育を推進する。 ○全小・中学校(29校)で薬物乱用防止教室を実施	児童生徒の発達段階を踏まえた、性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業を実施した。また、非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室を実施した。	学校教育課

基本目標 Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

Ⅱ-6

施策名		体力の向上と学校体育活動の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性	○新体力テストの実施・活用による体力と運動技能を高める授業の充実を図る。 ○学校が家庭や地域と連携して児童生徒の生活習慣の改善や運動習慣の確立を図る。 ○部活動地域移行を含め、専門的な指導力を有する地域の外部人材などを積極的に活用するなど運動部活動の新たな体制づくりに取り組む。								
	施策に関連する 主な取組	○学校体育の充実 ○新体力テストの実施と活用 ○運動部活動の体制づくり							
指標名	新体力テストの総合評価で上位3ランク(A+B+C)の児童生徒の割合								
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標 国が実施する「新体力テスト」の5段階総合評価のうち、上位3ランクの児童生徒の割合	小学校	80.4%	79.1%	80.2%	—	—	—	85.0%	
	中学校	81.8%	80.9%	80.8%	—	—	—	85.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	80.4%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	85.0%
		中学校	81.8%				中学校	85.0%	
成果指標の 評価	2	1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている							
課題	・3年間を通して、体力の伸びはあまり見られず、横ばいの状態である。								
評価コメント	・令和9年度の85%を達成するために、魅力ある体育授業を展開し、運動好きな児童・生徒を育て、運動習慣の確立を図っていく。								
総合評価	B	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							

最重点事業評価表

最重点事業名	地域連携等も含めた部活動の指導体制の充実	担当課	学校教育課
概要	地域連携や地域クラブ化を見据えながら、部活動指導員や外部指導者を活用し、指導体制を充実させる。		
令和5年度の実績	【部活動指導員の配置・外部指導者の活用】		
	<p>中学校における部活動指導体制の充実を推進するため、専門的指導力を兼ね備えた部活動指導員を活用する。また、深谷市スポーツ協会や関係団体と連携し、専門的スキルを有する人や、指導歴が豊富な指導者を活用し、運動部活動の充実を図る。</p> <p>○中学校4校に配置することができた。 ○外部指導者を全中学校(10校)に配置できた。</p>		
	【部活動の地域意向を見据えた地域クラブ活動の実施】		
	<p>休日の部活動について、地域と連携・協力しながら行う方法を研究していくために、国の実証事業に参加し、市内3部活について、地域の指導者の協力を得ながら活動を実施した。</p> <p>○市内3部活を実施できた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	部活動指導員を配置した学校数	4校	部活動指導員を4校に配置することができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	中学校4校に部活動指導員を配置することができた。また、部活動指導員を活用することで、指導者の資質の向上を図るとともに、地域の指導者を活用することで、運動部活動と地域社会との連携を促進することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
自己の体力の伸びを実感する体育授業の充実	<p>児童生徒が、自らの課題に向き合い、解決に向け目標を設定し、自己記録更新などの目標を達成できるよう、外部指導者の活用などを含めての個に応じた指導を充実させる。</p> <p>○外部指導者を全中学校(10校)に配置できた。</p>	外部指導者を全中学校(10校)に配置し、専門的な指導のもとに、運動部活動の充実を図ることができた。	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-1

施策名		信頼される教職員の育成				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	○教員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実する。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組む。 ○更なる業務改善や教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の導入などにより、教員が児童生徒と向き合う環境づくりを進めるとともに教員のワークライフバランスの向上に努める。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進する。									
	施策に関連する 主な取組	○教育研究所の機能の充実 ○教員研修の充実 ○経験豊かな人材の活用 ○人事評価制度の活用				○児童生徒と向き合う環境づくりの推進 ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ○指導力が不足している教員への対応				
指標名	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合									
成果指標	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
	「全国学力・学習状況調査」において、授業研究や事例研究など、実践的な研修を「よくしている」と回答した学校の割合	小学校	63.2%	66.9%	49.2%	-	-	-	100.0%	
		中学校	50.0%	55.0%	60.0%	-	-	-	100.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	63.2%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	100.0%	
		中学校	50.0%				中学校	100.0%		
成果指標の評価	3		1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている							
課題	・働き方改革に伴い、研修の効率化を図るとともに、若手教員の増加に対応した充実した研修の実施。 ・人事評価制度では、学校によって校長が定める目標に教職員の目標がつかない場合や、異なったりすることが見受けられるため、自己評価シートの作成における共通理解をさらに図る必要がある。									
評価コメント	・コロナ禍で十分な研修を受講できていないことも考えられるので、働き方改革も考慮しながら、充実した研修を実施していく。 ・管理職を対象とした人事評価制度の研修を実施することで、評価者としての評価能力の向上と理解が深まってきた。									
総合評価	B		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							

最重点事業評価表

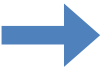
最重点事業名	関係機関との連携による教員、保護者、児童生徒支援の充実		担当課	学校教育課
概要	教員の資質・能力の育成支援拠点となるよう整備を進めるとともに、専門員や発達支援アドバイザーが関係機関による連携、学校・教員・保護者等への支援、巡回相談等を充実させることで、発達障害等の諸課題解決に向け取り組む。			
令和5年度の実績	【学校、保護者支援拠点としての研究所】 教員の資質・能力の育成支援拠点となるよう整備を進め、発達障害など課題に対応するため、研究所の専門員や発達支援アドバイザーによる、学校、教員、保護者等への支援や巡回相談の充実、関係機関等との連携に取り組んだ。 ○巡回相談 保育園38回 幼稚園8回 小学校18回 中学校19回 ○発達支援アドバイザーによる学校訪問実施回数 小学校44回 中学校10回 ○他機関訪問及び連携 127回			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育研究所への相談件数	1,931件	教育研究所への相談件数は1,931件となっており、相談件数は依然として多くなっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教育研究所への相談件数の内訳は、発達検査・報告が27%、就園・就学相談が25%、不登校が19%となっている。相談へ迅速かつ適切に対応できるように担当者の割り振りをしていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
教員の資質・能力の育成支援拠点としての機能強化	教育公務員特例法に基づく研修のあり方を参酌し、授業力向上を目指した実践的な研修の実施などにより、教員の資質・能力の向上を図る。 ○関係機関と連携し、研修を確実に実施した。	働き方改革を考慮して効率化を図り、オンラインでの研修も実施できた。また、関係機関とも連絡調整を密に行なった。	学校教育課
公正・公平な評価及び一人一人の教職員の資質・能力の向上	人事評価制度を活用し、学校全体の教育力を高め、教職員の資質・能力の向上を図る。 ○校長と教頭を対象にした評価者としての研修会を3回実施した。	教職員評価システム変更点、人事評価制度運用上の留意点について研修を行い、評価者の評価制度の活用の向上を図った。	学校教育課
学校現場の負担軽減	ICTの活用による校務支援の充実や事務の共同実施による業務の効率化に向けた取組を進める。 ○学校日誌、旅行命令簿、出勤簿のデジタル化、職員会議のペーパーレス化を適宜導入するなど、児童生徒に向き合う時間の確保、教員の働き方改革に繋がった。	教材研究・指導の準備・評価・校務などにICT機器を活用することが定着し、平時の授業における端末の利活用も進んでいる。	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-2

<p>施策名</p> <p>学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p> <p>○管理職を中心に教員の指導・支援体制の充実を図るとともに、教員と多様な人材が連携・協働し、学校の組織力向上を図る。 ○学校が核となり、学校・家庭・地域が協働して学校運営に取り組む組織体制を築き、充実させる。 ○学校評価を子供たちの教育に生かせるよう、評価結果の反映を充実させる。</p>								
<p>施策に関連する 主な取組</p> <p>○組織運営体制の整備・充実 ○学校運営協議会の充実 ○地域学校協働活動に関する連携・協働体制の整備</p>								
<p>指標名</p> <p>学校運営協議会の平均開催回数</p>								
<p>成果指標</p>	<p>指標の説明</p>	<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
	<p>各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数</p>	<p>3.2回</p>	<p>3.2回</p>	<p>3.5回</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>4.0回</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>3.2回</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>4.0回</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>1</p>	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>					
<p>課題</p>		<p>・学校運営協議会の内容の充実を図るとともに、地域、家庭、教員等に広く学校運営協議会を広報し、コミュニティ・スクールの内容と意義を周知する必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・学校運営協議会の実施回数については、各校とも学期に1回を目途に実施している。各校の実情をふまえながら実施しており、実施回数も増加傾向にある。 ・学校運営協議会の内容に関しては、地域と連携した取組として、各校独自の取組が増えてきている。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>	<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

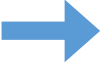
最重点事業名	「チームとしての学校」のための組織力の向上		担当課	学校教育課
概要	教員と各専門スタッフが1つのチームとして子供たちに向き合うことで学校運営体制の充実を図る。			
令和5年度 の実績	<p>【学校運営協議会の実施】</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことを受け、各校では学校行事等の再開の在り方等について学校運営協議会の承認を得ながら進めることができた。</p> <p>○各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数:3.5回</p>			
	<p>【地域学校協働活動に関する連携協力体制の整備】</p> <p>生涯学習スポーツ振興課が中心となって、地域学校協働活動推進員の選考を進めた。候補者の選考は、学校運営協議会委員、学校応援団、公民館運営審議会を兼務している者を参考に選考したため、地域学校協働活動に関する連携は行いやすいと想定している。</p> <p>○地域学校協働活動推進員の委嘱人数:29名</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
	各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数	3.5回	各校では学校の実態に応じて、感染症予防に考慮しながら、よりよい学校づくりに向けて協議を行った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校運営協議会の実施回数については、各校とも学期に1回を目途に実施しており、各校の実情をふまえながら目標値を達成した。また、学校運営協議会の内容に関しては、地域と連携した取組として、各校独自の取組が増えてきている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
地域と共にある学校 づくりの推進	<p>学校・家庭・地域が協働して学校運営の改善、充実が図れるよう、学校運営協議会を支援する。</p> <p>○各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数:3.5回</p>	<p>平成28年度より全小・中学校(29校)で学校運営協議会を開催できている。今後は学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会を開催していく。</p>	学校教育課
地域学校協働活動推進員の配置と研修の充実	<p>地域学校協働活動推進員と学校運営協議会との協力体制を整える。</p> <p>○推進員の配置人数:29人/29校</p>	<p>推進員が、学校・地域のニーズをしっかりと把握しコーディネートできるよう推進活動のモデル化を図る。</p>	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-3

<p>施策名</p> <p>子供たちの安全・安心の確保</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努める。 ○東日本大震災の教訓を踏まえ、子供たちに危機対応能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な防災訓練などを地域と連携して計画的に実施する。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○安全教育の推進</p>						
		<p>○学校の危機管理体制の整備・充実</p>						
		<p>○家庭・地域と連携した学校安全体制の推進</p>						
<p>指標名</p>		<p>地域と連携した防災訓練の実施率(中学校)</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>市内中学校における地域と連携した防災訓練の実施率</p>		<p>60.0%</p>	<p>60.0%</p>	<p>60.0%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>100.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>60.0%</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>100.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>3</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・成果指標である地域や関係機関と連携した防災訓練の実施率は、基準値となる令和3年度から横ばいである。 ・成果指標である「市内中学校における地域と連携した防災訓練の実施率」は令和9年度目標値に比べ低い が埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校(29校)で1回以上 実施できた。 ・地域ぐるみで子供たちの安全を見守る活動を行った。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>B</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	学校安全体制の充実	担当課	学校教育課
概要	深谷市登下校安全見守り連絡会や深谷市通学路安全対策連絡会を中核とし、こども110番の家・車、スクールガードリーダーなど、学校・家庭・地域が一体となった、地域ぐるみの学校安全体制の充実に努める。		
令和5年度の実績	【子供たちの安全・安心の確保】 ○安全教育の推進 ○学校の危機管理体制の整備・充実 ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ○安全点検の実施 ○全小・中学校(29校)が緊急地震速報の音源等を活用した避難訓練を実施 ○地域ぐるみで子供たちの安全を見守るために、「安心・ふっか・パトロール」子ども110番の車事業や子ども110番の家を継続 ○子供の声を取り入れた防災無線による下校の呼びかけを実施		
	指標名	実績値	指標別コメント
	地域や関係機関と連携した避難訓練の実施率	60%	市内中学校における地域と関係機関と連携した避難訓練の実施率
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	成果指標である地域や関係機関と連携した避難訓練の実施率は、令和4年度から大幅に向上している。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
交通安全意識の醸成	<p>ヘルメット着用や、中学生の自転車運転時の交通安全ルールへの遵守など、子供たちの交通安全意識を高める。</p> <p>○小学校1年生を対象に、登下校用や自転車乗車時用のヘルメットを配布した。 交通安全教室を全小・中学校で実施した。</p>	小学生の登下校時でのヘルメットの着用や、中学生の自転車運転時のルール遵守は、子供たちの命を守る教育として必要な指導である。今後も、子供たちの交通安全意識を高めていく必要がある。	学校教育課
防災訓練の実施	<p>学校保健安全法を踏まえ策定した危機管理マニュアルの周知を図るとともに、保護者・地域と共に防災訓練や引き渡し訓練を実施します。併せて訓練により判明した課題をマニュアルへ反映させ実効性を高める。</p> <p>○緊急地震速報等を活用した避難訓練を全小・中学校(29校)が実施した。 小学校においては、引き渡し訓練を含めた避難訓練を全小学校(19校)が実施した。 不審者の対応マニュアルの見直しや確認を指示した。</p>	地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全小・中学校(29校)において緊急地震速報の報知音等を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-4

施策名		学習環境の整備・充実			点検評価表 作成課	教育施設課		
施策の方向性		○計画的な施設整備により、安全で良好な学習環境づくりを進める。 ○衛生面を配慮し、トイレの洋式化を推進する。 ○教材・備品の整備、学校図書館の資料の充実、学校の情報化を推進する。						
施策に関連する 主な取組		○学校施設の整備						
		○教材・備品の整備						
		○学校図書館の充実						
		○ICT環境の充実						
指標名		小・中学校トイレの洋式化率の向上(教職員用・来客用・給食場のトイレは除く)						
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
市内小・中学校の児童生徒が使用する大便 器総数に対する洋式便器数の割合		48.6%	49.7%	52.6%	-	-	-	70.0%
		基準値 (令和3年度)		48.6%	→		目標値 (令和9年度)	
成果指標の 評価		1 1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている						
課題		・学校トイレ洋式化実施計画に沿った整備を実施するため、補助金等を活用し、予算の確保が求められる。 ・学校施設の老朽化へ対応するため、学校施設長寿命化計画が策定されたが、計画に遅れが生じているため計画の見直しが求められる						
評価コメント		・学校トイレ洋式化実施計画に沿った整備を実施することができた。 ・学校トイレ洋式化実施計画の改修スケジュールを考慮し、便器のみを和式から洋式に交換する工事を個別に実施し、洋式化率を向上することができた。 ・学校トイレ洋式化実施計画の令和5年度の目標値51.7%を上回ることができた。 ・一人一台端末の保守・運用について適切に行った。 ・計画的な図書の購入により、小中学校全体において図書館の標準図書冊数を上回ることができた。 ・国庫補助金の活用により、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						
総合評価		A ※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない						

最重点事業評価表

最重点事業名	学校施設整備事業	担当課	教育施設課
概要	トイレのユニバーサル化及び洋式化を進めるため桜ヶ丘小学校トイレ改修工事（Ⅰ期工事）を実施する。また、大寄小学校、上柴中学校のトイレ洋式化改修設計業務を行う。		
令和5年度 の実績	<p>【トイレ改修工事の実施】</p> <p>桜ヶ丘小学校におけるトイレの環境改善及び洋式化を進めるため、第1校舎西側系統トイレの改修工事を工期内に完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トイレ洋式化率の向上 ○工期内の工事完成 ○工事中の労働災害 0件 ○工事成績 評点80点 <p>【トイレ改修工事設計業務の実施】</p> <p>大寄小学校、上柴中学校のトイレ洋式化を進めるため、トイレ洋式化改修設計業務を実施し履行期限内に完了させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履行期限内の業務完了 100% ○大寄小学校設計業務成績 評点65点 ○上柴中学校設計業務成績 評点67点 		
		指標名	実績値
	契約期限内の工事完成及び設計業務完了	100%	トイレ改修に係る改修工事1件、設計業務2件を契約期限内に完成または完了させることができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	引き続き、トイレ洋式化率の向上に向けて、工事及び設計業務を計画的に進めていく。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
小・中学校ICT整備事業	<p>安定した通信環境の整備など渋沢 spirit in ふかや GIGAスクールを充実させるための環境整備を進める。</p> <p>OLBO全校実施</p>	センター集約からLBO（ローカルブレイクアウト：各学校からインターネット回線へ接続）へ変更し各学校のネットワーク環境の改善を図った。	学校教育課

基本目標Ⅳ 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上

Ⅳ-1

成果指標	施策名	家庭の教育力向上に向けた支援					点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課
	施策の方向性	○家庭教育の大切さについて啓発するとともに子供たちが基本的な生活習慣を身に付けるための活動を推進する。 ○親が親として育ち、家庭における教育力が向上するための学習の機会を提供する。						
	施策に関連する 主な取組	○家庭教育学級の充実 ○親の学習講座の推進 ○地域世代間交流事業の推進 ○家庭教育だより「まごころ」の発行						
	指標名	親の学習講座の参加者数						
	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
	親の学習講座の参加者数(家庭教育学級・就学時健診)	621人	1,003人	1,454人	-	-	-	1,800人
		基準値 (令和3年度)	621人		➡		目標値 (令和9年度)	1,800人
	成果指標の 評価	1 1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている						
	課題	・コロナ禍をきっかけとして家庭教育学級は参加者が減少している。座学だけでなくスポーツ・レク等も含めた学級を開催する必要がある。 ・親の学習講座を継続的かつ拡大していくためには、埼玉県による家庭教育アドバイザーの確保・育成が重要である。						
	評価コメント	・公民館における家庭教育学級はすべての館で開設でき、親の学習講座の参加者数は、前年の実績を上回ることができた。 ・就学時健診で実施している親の学習は、19校中18校で実施でき、参加者数は、前年の実績を上回ることができた。 ・公民館で開催している各種事業は、徐々に再開し、世代間交流事業も概ね開催することができた。 ・家庭教育だより「まごころ」の発行は、計画どおり年3回発行することができ、回覧板や電子媒体配信により広く啓発できた。						
	総合評価	A ※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない						

最重点事業評価表

最重点事業名	家庭教育学級事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	公民館において家庭教育学級を実施し、家庭における教育力の向上や親同士の交流の促進を図る。		
令和5年度の実績	<p>【家庭教育学級の開設及び「親の学習」講座の実施】</p> <p>公民館(12館)において家庭教育学級を開設し、保護者等が各講座を通じて、家庭教育の重要性や子育てに必要な知識を学ぶとともに、保護者による交流等行う。また、家庭教育学級の1講座として、「親の学習」を実施し、グループ形式による意見交換・情報共有等を行う。</p> <p>○学級実施回数:26回 ○「親の学習」実施数:16回 ○学級参加者数:1,244人 ○「親の学習」参加者数:453人</p> <p>【就学時健康診断「親の学習」講座の実施】</p> <p>小学校(19校)が実施する就学時健診において、保護者を対象に「親の学習」講座を実施し、グループ形式による意見交換・情報共有等を行う。</p> <p>なお、親の学習は、埼玉県家庭教育アドバイザー及び社会教育指導員が講師となり行っている。</p> <p>○講座実施校:18校 ○講座参加者数:1,001人</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	家庭教育学級等(親の学習講座含む)参加者数	2245人	家庭教育学級及び「親の学習」講座(小学校)の参加者数(合算)は、前年度の実績値を上回った。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	令和5年度においては、各公民館事業が概ね再開し、家庭教育学級についても、すべての館で開設することができた。また、「親の学習」講座(就学時健診)についても、19校中18校で実施でき、昨年の実績を上回ることができた。引き続き、公民館関係団体や小学校と連携を図り、これら事業を継続的に実施する。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
世代間交流事業	<p>郷土に伝わる行事等の体験活動(もちつき会、しめ縄飾り教室等)をとおして、世代間の交流を図る。</p> <p>○公民館における世代間交流等事業数:8事業</p>	市内5館(藤沢・明戸・大寄・豊里・上柴・川本)で、輪投げ、しめ縄飾り、七夕祭り、十日夜等事業を実施した。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標Ⅳ 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上

Ⅳ-2

<p>施策名</p> <p>家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○地域住民の地域学校協働活動などへの積極的な参加を促進し、子供たちの居場所づくりや学習支援などを行う体制を強化する。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進する。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○放課後子ども教室の推進 ○地域学校協働活動推進員・学校応援団活動などの推進 ○学校教育・社会教育の連携 ○ボランティア活動の促進</p>			<p>○青少年健全育成活動の促進</p>			
<p>指標名</p>		<p>地域の行事や活動に参加している子供の割合</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>成果指標</p>	<p>全国学力・学習状況調査において、市内の全ての小学6年生及び中学3年生のうち、地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合</p>	<p>64.1%</p>	<p>59.8%</p>	<p>61.8%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>73.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>64.1%</p>		<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>73.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>2</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・がんばル～ム参加者数の減少に伴う事業の見直し(平日放課後子ども教室19校へのシフトなど)が必要である。 ・平日放課後子ども教室の運営者(コーディネーター)、協力者の確保が必要である。 ・地域学校協働活動推進員(各小中学校に1名配置)の周知(公民館・学校・自治会・青少年健全育成会など地域団体)が必要である。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・実績値は前年に比べ2ポイント増加した。各地域における取組等が徐々に再開したことによるものと判断する。 ・がんばル～ムは、小学校19校で実施することができた。アンケート調査結果では参加児童の満足度は高い状況(83.4%)である。 ・平日放課後子ども教室の実施校を6校で計画したが、うち1校(川本北小)は運営者の引き受け手がなく実施することができなかった。 ・全校に地域学校協働活動推進員を配置し活動支援を行うことができた。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	放課後子ども教室推進事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	「がんばル〜ム」の実施のほか、平日の放課後子ども教室の拡充に努めます。		
令和5年度の実績	【がんばル〜ムの開設】 土曜日の午前中に市内小学校(19校)の図書室等において、児童を対象に自主学習の支援を行う。学習の支援・相談等は、ちいきの先生(地域の人材)が行う。なお、年間実施回数は、各校20回程度(夏・冬・春休み等は除く)を計画した。 ○実施回数(19校):395回 ○参加児童数(19校):394人 ○ちいきの先生の数:108人 ○参加児童満足度:83.4% 【平日放課後子ども教室の実施】 令和元年度からモデル事業として、平日の放課後、市内小学校の空き教室等において、3年生から6年生を対象に漢字学習や体験学習等を行う。漢字学習や体験学習等の指導は、ちいきの先生や地域の団体が行う。なお、令和5年度の実施校は6校(深谷・大寄・八基・岡部・川本北・花園)とし、年回実施回数は10回程度を計画した。 ○実施校:5校/6校 ○実施回数(5校):46回 ○参加児童数(5校):97人 ○参加児童数(累計):812人		
	指標名	実績値	指標別コメント
	がんばル〜ム参加児童数(19校)	394人	がんばル〜ム参加(登録)児童数は、昨年の実績(437人)を下回る実績となった。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	がんばル〜ム参加児童数は年々減少している。ちいきの先生の数も同様であり、その過半数は高齢者である。今後の運営を見据え、会場を公民館に変更しスポーツ・レク等を拡大するなど、がんばル〜ムの充実に向け検討を進める。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
地域学校協働活動推進員・学校応援団活動などの推進	市内小・中学校区に地域学校協働活動推進員を配置し、地域学校協働活動の推進を図ります。その際、学校応援団等の活動を充実させ、登下校の安全確保や学習のための支援体制を強化します。 ○推進員の配置人数:29人/29校	推進員が、学校・地域のニーズをしっかりと把握しコーディネートできるよう推進活動のモデル化を図る。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 V 生涯学習の推進

V-1

<p>施策名</p> <p>市民のニーズに応える生涯学習の支援</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p> <p>○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備する。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、公民館事業等の更なる充実を図るとともに、企業等の専門的知識・技術を活用した講座等を開催し、市民の学習機会の拡充を図る。</p>								
<p>施策に関連する 主な取組</p> <p>○生涯学習推進体制の整備・充実 ○指導者の育成・確保 ○学習情報の収集と提供 ○講座・教室の充実</p>		<p>○ふかや市民大学の推進 ○子供体験学習の推進</p>						
<p>指標名</p> <p>生涯学習を実践している市民の割合</p>								
<p>指標の説明</p> <p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「自発的な学習や自己啓発活動など生涯学習を実践している」と答えた市民の割合</p>		<p>令和3年度 実績値</p> <p>31.3%</p>	<p>令和4年度 実績値</p> <p>35.3%</p>	<p>令和5年度 実績値</p> <p>34.4%</p>	<p>令和6年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和7年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和8年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和9年度 目標値</p> <p>38.0%</p>
<p>成果指標</p>		<p>基準値 (令和3年度)</p> <p>31.3%</p>		<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p> <p>38.0%</p>		
<p>成果指標の 評価</p> <p>4</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・公民館の利用拡大に伴う、さらなる利用促進が求められている。 ・コロナ禍をきっかけとして、今後の公民館事業の見直しが必要である。 ・市民ニーズに合致した事業(市民大学・子ども大学等)展開が求められている。 ・市民大学卒業生(校友会等)による街づくりへの参加等支援が必要である。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・実績値は前年の実績値を下回った。今後、指定管理者が、より魅力的な公民館事業を展開することで学習活動の促進を図る。 ・令和7年度から指定管理者制度を導入することで、市民の学習活動機会の充実を図る。 ・成果指標の評価を4(悪化傾向)としたが、実績値は基準値と目標値のほぼ中間値であることから、総合評価をAとした。</p>						
<p>総合評価</p> <p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表


最重点事業名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	市民の生涯学習及びボランティア活動への理解を深め、学習を通して人と人がつながり、そこで得た学習成果をまちづくりに生かすことを目的に「ふかや市民大学」を開設する。			
令和5年度の実績	【ふかや市民大学の開校】 大学教授や行政職員、地域人材等を講師として、年間20回(ひと月2回程度)の講座を行う。また、卒業生は、市民大学校友会に加入(希望者)し、継続的に学習活動を行っている。 ○応募者数:77人/80人 ○卒業生数:68人 ○校友会登録率:77.94% ○運営委員会開催数:3回			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	受講生の満足度	94%	受講者アンケート調査による満足度(良かった)は、とても高い(94.1%)結果である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	応募者数は定員を満たさないが、受講生の満足度は9割を上回っており、講義内容は好評である。また、卒業生の7割が校友会に加入し、卒業後の学習活動の場を提供することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
子ども大学推進事業	地元大学等との連携により「子ども大学」を開設し、子どもの知的好奇心を刺激する講座等を実施するなど、学習・体験活動の機会を提供する。 ○応募児童数:35人/40人	応募児童数は定員を満たさないが、参加児童アンケート調査の満足度(楽しかった)は100%である。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 V 生涯学習の推進

V-2

<p>施策名 生涯学習施設の整備・充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○生涯学習施設の整備・充実を図る。 ○生涯学習施設の適切かつ効率的な維持管理に努める。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○公民館の整備・充実</p>						
		<p>○図書館施設の充実</p>						
<p>成果指標</p>	<p>指標名</p>	<p>公民館の稼働率</p>						
	<p>指標の説明</p>	<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
	<p>市内12公民館全室の1時間ごとの平均稼働率</p>	<p>30.1%</p>	<p>27.4%</p>	<p>30.2%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>35.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>30.1%</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>35.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>	<p>1</p>	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>	<p>・豊里公民館、幡羅公民館、大寄公民館等の一部の公民館は建設から25年が経過していることから、大規模改修を実施する必要がある。 ・令和7年度の指定管理者制度の導入に向け、指定管理者(深谷市地域振興財団)とともに公民館事務等の引継ぎ業務を行う必要がある。 ・深谷図書館は建設から33年が経過しており、施設や設備の点検において不具合等を指摘されていることから、修繕や更新を実施する必要がある。</p>							
<p>評価コメント</p>	<p>・成果指標である市内公民館の稼働率は、前年度の数値を上回ることができた。 ・公民館使用料(歳入)は、前年度の実施に比べ390万円ほど増加した。前年度同様、営利利用等による増加である。 ・市内公民館の保守点検や修繕など実施し、適正な施設の維持管理を行うことができた。 ・川本地区複合施設(川本生涯学習センター・川本公民館、川本図書館、川本総合支所)建設工事は令和6年3月に竣工、4月1日に開館できた。 ・深谷図書館の屋上防水改修工事、市内図書館の保守点検や修繕などを実施し、適正な施設の維持管理を行うことができた。</p>							
<p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない</p>					<p>A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>	

最重点事業評価表

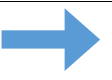
最重点事業名	公民館施設整備維持事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	市民の学習・活動機会の拡充や適切な施設維持管理を行うとともに、令和7年度実施予定の住民サービスの向上等を図ることを目的とする指定管理者制度の導入に向け、選定事務や事務引継ぎ等業務を行う。また、川本地区の新たな学習活動・地域振興の拠点となる川本複合施設の建設工事の完成を目指す。		
令和5年度の実績	【川本地区複合施設建設事業の進行管理】 令和4年4月に着工した建設工事が令和5年度中に完成できるよう教育施設課(施行委任先)、川本公民館、図書館、川本総合支所と進捗管理を行う。令和5年度は、備品購入、事務所移転等事務を行い、3月23日に落成式(建設工事しゅん工)を開催した。 ○備品購入事務:10月～3月 ○落成式:3月23日 ○開館日:令和6年4月1日 【公民館施設の維持管理】 市内12公民館の維持管理(施設法定点検・保守点検、施設修繕、光熱水費等の支払いなど、公民館(生涯学習センター)施設の適正な維持管理を行うことができた。特に、施設修繕については外壁タイル修繕、雨漏り修繕、消防設備修繕等を実施したほか、3館(幡羅・八基・豊里)で空調機の更新を行った。 ○年間修繕件数:71件 ○年間修繕費:9,433,850円 ○瑕疵による事故件数:0件		
	指標名	実績値	指標別コメント
	公民館利用者数(年間)	571,200人	公民館利用者数は、昨年度の実績(493,940人)を上回ることができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	令和7年度から、公民館の運営を指定管理者が行うことで、市民の学習活動機会の拡充、効率的・効果的な施設の運営に期待する。令和6年度は、指定管理者とともに公民館事務等の引継ぎ業務を円滑に行う。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 V 生涯学習の推進

V-3

施策名		図書館サービスの充実			点検評価表 作成課	図書館		
施策の方向性		<p>○ニーズの多様化・高度化に対応するため、幅広く資料を収集するとともに図書館資料の整備・充実に努める。</p> <p>○ICTを活用した図書館サービスの充実に努める。</p> <p>○お話し会や各種講座・講演会などを開催し、市民文化の向上を図るとともに、子供や障害者をはじめ幅広い市民の読書活動の推進を図る。</p>						
施策に関連する 主な取組		○図書館機能の充実						
		○地域の情報拠点としての資料の収集と提供の充実						
		○読書活動の推進						
		○図書館運営の充実						
指標名		市民一人あたりの図書館資料の貸出点数						
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 目標値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
図書館本館、4分館での貸出点数の合計を 人口で割った平均値		3.45点	3.58点	3.44点	-	-	-	4.00点
		基準値 (令和3年度)	3.45点				目標値 (令和9年度)	4.00点
成果指標	成果指標の 評価	<p>3</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
課題		<p>・利用者のリクエストを分析して図書資料を購入するとともに、各館独自の資料を収集する必要がある。</p> <p>・蔵書管理と貸出業務の効率化、サービスの向上、図書館情報システムのセキュリティ強化を図るため、ICTを活用した業務改善を検討していく必要がある。また、講座やおはなし会の申込やアンケートなどにICTを活用した業務改善を検討していく必要がある。</p> <p>・「第3次深谷市子供読書活動推進計画」の目標や取組の達成状況を検証し、学校、地域等との連携を図り、さらなる子供の読書活動の推進を図る必要がある。</p>						
評価コメント		<p>・令和6年4月1日、川本図書館はワモア川本に移転した。その事前準備として新川本図書館の収蔵可能冊数が旧川本図書館の所蔵冊数から減少することから、旧川本図書館の汚損や資料的価値の低い図書資料を除籍したため蔵書数が減少したが、新川本図書館用に利用者ニーズに応じた図書資料の購入を行った。</p> <p>・令和5年5月に新型コロナの5類移行により、8月からおはなし会の開催方法を、コロナ対応の参加者分散2部制からコロナ禍前の1部制に戻した。開催回数は減少したが、保健センターに4か月児健診を受けに来る親子を対象としたブックスタート時に積極的におはなし会をPRしたこともあり、参加者が増加した。</p>						
総合評価		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表


最重点事業名	図書館資料整備事業	担当課	図書館
概要	生涯学習の拠点として、利用者ニーズに合わせた幅広い領域の図書館資料の整備を各館で推進する。		
令和5年度の実績	【図書館資料の購入】 図書館運営の基本方針、選書方針に基づき、利用者のニーズに応じた図書館資料の購入を行った。 ○図書購入数6,066冊 ○視聴覚資料購入数152点 ○雑誌購入数2,083冊		
	指標名	実績値	指標別コメント
	図書・視聴覚・雑誌購入点数	8,301点	選書方針に基づき一般書、児童書などを幅広く、バランスよく購入することができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	リクエストの状況、アンケート調査などにより、利用者ニーズを分析し、図書館資料の購入に反映している。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
読書活動の推進	おはなし会や各種講座の開催など、各世代での読書活動を推進していくとともに、第3次深谷市子供読書活動推進計画に基づき、子供の読書活動を推進する。 ○おはなし会・講座等 延べ参加人数1,857人、実施153回	新型コロナウイルスの5類移行により、おはなし会や講座等の参加人数が増加した。	図書館

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進

VI-1

<p>施策名</p> <p>多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○トップレベルの大会や各種スポーツ・レクリエーション大会・教室などへ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図る。 ○スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備する。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実</p>						
		<p>○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援・連携</p>						
<p>指標名</p>		<p>トップレベル大会の観戦者数及び関連したイベントの参加者数</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>トップレベルの大会での観戦者数や関連したイベントなどへの参加者数</p>		<p>4,907人</p>	<p>10,770人</p>	<p>7,889人</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>5,500人</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>4,907人</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>5,500人</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>1</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<p>・ふかやシティハーフマラソンについては、燃料費や人件費及び物価の高騰の影響を受け、経費の増加が進む中、参加者の定員割れによる収入が減少する等、運営が困難な状況となっている。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・ふかやシティハーフマラソンについては、効率的な大会運営に向け、実施内容や業務の見直しを行った。前年に課題となっていた個所についても改善し、概ねトラブルなく進めることができた ・スポーツ協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の3団体が実施する市民大会や教室の開催を支援し、市民が広くスポーツ・レクリエーション活動に参加できる環境の整備を図った。 ・バスケットボールワールドカップにおける日本代表の活躍を受け観戦者数が増加傾向となった。また、渋沢栄一翁の新一万円札発行を控え、会場においてPRを行った。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	スポーツ教室・イベント開催事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	<p>「ふかやシティハーフマラソン」等のイベントを開催するとともに、子どものスポーツをする環境を推進するために多種目のスポーツを体験できる「ふっかちゃんジュニアスポーツフェスタ」を開催し、生涯スポーツの推進を図る。</p>		
令和5年度の実績	<p>【ふかやシティハーフマラソンの開催】 (公益)日本陸上競技連盟公認コースであるハーフと10kmをはじめ、5km、中学生以下を対象とした3kmと2.4km、親子での完走を目的とした1.6kmの計6種目を設定。 ○定員 ハーフ:2,800人 10km:1,200人 5km:700人 ○参加費 ハーフ・10km:6,000円 5km:5,500円 高校生:1,500円 中学生:1,000円 小学生:500円 親子:1,500円</p>		
	<p>【ジュニアスポーツフェスタの開催】 子どものスポーツばなれを解消するため、小学生を対象に各種スポーツ体験を実施し、スポーツを始めるきっかけづくりおよび青少年の健全育成、及び市内のスポーツ活動全体の活性化を目的とする。 ○体験種目数:21</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
第18回ふかやシティハーフマラソン及びジュニアスポーツフェスタの参加者数	5,875人	ふかやシティハーフマラソンについては、前年に続き定員割れとなったが、事故等なく安全に開催することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	参加者数が定員を割ったものの、多くの市民に対してスポーツ・レクリエーション活動を行う機会を提供することができた。また、競技時間の見直しによる周辺住民及び交通への負担の軽減や、参加賞の事前送付による業務の簡略化及び効率化が図られた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進

VI-2

<p>施策名</p> <p>生涯スポーツの推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○市民ニーズに合わせたスポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。 ○市民の健康づくりとふれあいの機会を創出する。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○スポーツ推進委員との連携の強化</p>						
		<p>○市民の健康づくりとふれあいの機会の創出</p>						
		<p>○障害者スポーツの推進</p>						
<p>指標名</p>		<p>スポーツやレクリエーションを行っている市民の割合</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>成果指標</p>	<p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」「ときどき行っている」と答えた市民の割合</p>	<p>54.3%</p>	<p>54.5%</p>	<p>55.7%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>59.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>54.3%</p>	<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>59.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>1</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>				
<p>課題</p>		<p>・スポーツ推進委員については、委員の高齢化が進むとともに、なり手不足により委員数が減少傾向にある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・ボッチャをはじめとしたパラスポーツの活動を推進するため、委員自身の技能向上を図るための研修会を実施。また、パラスポーツやニュースポーツの体験会等を開催し、普及に努めている。 ・日常的なスポーツ・レクリエーション活動を推進するために市内12地区に6～8kmのウォーキングコースを設定しているほか、ウォーキング大会を開催する等、市民が楽しみながら健康増進に取り組むことができる施策を進める。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表


最重点事業名	ウォーキング推進事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	市民が日常的に楽しみながら健康増進に取り組めるようウォーキングコースを設置するとともにウォーキング大会などを開催し、ふれあいの場を設ける。		
令和5年度の実績	【ウォーキングイベントの開催】 大寄公民館と市歩け歩け協会との共催イベント。 大寄地区の歴史遺産を巡るコースを設定。 新一万円札の発行記念大会として開催。 ○第10回ふっかちゃんわくわく市民ウォーキング		
	【ウォーキングコースの設定】 健康維持、体力向上を図ることができるウォーキングを身近に楽しみながら行えるよう市内12地区に設定。 1コースは概ね6～8km。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ウォーキングイベント参加者数	64人	市広報やHPIにて開催を広く周知した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	交通誘導にスポーツ推進委員や自治会の体育部の協力を仰ぐと共に歩行者専用道路をコースに選定する等安全面に配慮して開催。事故等なく実施することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
スポーツ推進委員活動事業	障害者関係団体と連携協力して、スポーツ推進委員を派遣しスポーツ・レクリエーションを通じて社会参画できる環境づくりを推進する。 ○派遣指導回数:26	障害者スポーツ体験交流会、市民体力測定、がんばル～ム軽スポーツ教室等、様々な対象者に向けたスポーツ・レクリエーションイベントを開催することができた。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進

VI-3

<p>施策名</p> <p>スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○計画的な改築や改修により利用者が安全かつ快適に利用できるよう、整備・充実を図る。 ○スポーツ施設の適正な維持管理に努める。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実</p>						
		<p>○スポーツ施設の維持管理</p>						
<p>指標名</p>		<p>スポーツ施設の利用者数</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>総合体育館(ビッグタートル)などのスポーツ 施設の年間利用者数</p>		<p>315,394人</p>	<p>446,299人</p>	<p>470,388人</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>573,000人</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>315,394人</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>1</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>				
<p>課題</p>		<p>・総合体育館については、指定管理者による管理・運営が行われていることにより、事故などの大きな問題は生じていないが、稼働から30年以上が経過し、全体的な老朽化が進んでいることから、改修等の整備を検討する必要がある。 ・市営グラウンドについては、より効率的かつ効果的な施設管理に向け、現状一部業務にとどまる指定管理者制度の導入を全業務へ見直していく。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・総合体育館については、コロナ禍前の水準まで戻っていないものの、施設利用件数や利用料金収入が増加傾向にある。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表


最重点事業名	社会体育施設整備管理事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	積極的なスポーツ・レクリエーション活動の推進に向けて、総合体育館や公民館体育室などのスポーツ施設の環境整備に務める。		
令和5年度の実績	【総合体育館の整備管理】 スポーツ・レクリエーションの振興を図り、以って健康で文化的な生活に資するために設置した総合体育館について、安全かつ快適な施設利用に向けた修繕や備品管理を行い、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整備する。 指定管理制度を導入。 ○利用者数 206,398人 ○利用料金収入 39,487,660円 ○エアコン冷温水発生器修繕を実施		
	【市営グラウンドの維持管理】 スポーツ・レクリエーションの普及を通してコミュニティ活動の推進及び健康増進を図るために設置する計7グラウンドを適正に維持する。 指定管理制度を導入。 ○利用者数 65,227人 ○使用料金収入 2,298,050円		
	指標名	実績値	指標別コメント
総合体育館開館日数	359日	臨時休館することなく開館することができた	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	指定管理者によりスポーツ以外のイベント等の利用促進が行われ、施設の効率的かつ効果的な運用が行われている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-1

<p>施策名</p> <p>郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>文化振興課 渋沢栄一記念館</p>				
<p>施策の方向性</p> <p>○郷土にゆかりのある偉人顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信する。 ○郷土にゆかりのある偉人に関する文化財等の活用を推進する。</p>								
<p>施策に関連する 主な取組</p> <p>○郷土にゆかりのある偉人に関する情報の収集と発信 ○郷土にゆかりのある偉人に関する文化財等の活用</p>								
<p>指標名</p> <p>渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数</p>								
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>渋沢栄一にゆかりのある「中の家」「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」「渋沢栄一記念館」の1年間の来場者数</p>		<p>486,698人</p>	<p>163,603人</p>	<p>171,968人</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>274,000人</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>486,698人</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>274,000人</p>
<p>成果指標</p>	<p>成果指標の 評価</p> <p>2</p>	<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・新一万円札発行後も企画展やイベントを通じた情報発信の進め方を考える必要がある。 ・旧渋沢邸「中の家」の土蔵群や尾高惇忠生家の改修整備のための課題を克服する必要がある。 ・ボランティア団体の継続的な支援活動のあり方を考える必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続し、展示活用基本計画に基づき、保存と展示活用の両立を図る必要がある。 ・デジタルミュージアムの見直しに向けた取り組みが必要である。 						
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一関連の企画展等を4回開催し、渋沢栄一や関係のある郷土の先人達の幅広い事績を周知できた。 ・収蔵資料の修復と整理、データベース化を継続的に進めることができた。 ・旧渋沢邸「中の家」主屋の管理運営業務を民間に委託し、見学者への対応を円滑に行うことができた。 ・ボランティア団体によるまち歩きツアーは16回開催し、参加者から好評を得た。 ・畠山重忠関連の企画展等を3回開催し、郷土の偉人・畠山重忠の事績と人物像を広く周知できた。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理を進めるとともに渋沢栄一ゆかりの施設を巡るスタンプラリーを実施し、郷土の偉人を広く周知できた。 ・深谷市HP(デジタルミュージアム、畠山重忠辞典等)にて、情報発信した。 						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表


最重点事業名	郷土の偉人顕彰事業	担当課	文化振興課
概要	渋沢栄一翁、畠山重忠公等の郷土の偉人顕彰事業に取り組む。		
令和5年度 の実績	【郷土の偉人顕彰事業】 渋沢栄一翁をはじめ、郷土の偉人に関する情報の収集と発信(企画展の開催、資料解説員の配置、収蔵資料のデータベース化、資料の修復、パンフレット等の作成・配布、スタンプラリーの実施等)を行った。 渋沢栄一ゆかりの史跡の整備と活用(旧渋沢邸「中の家」主屋の改修工事及び外構の整備、一般公開の開始、ボランティア団体との協働によるまち歩きツアー)に取り組んだ。 ○企画展等の実施回数 … 4回		
	【郷土の偉人顕彰事業】 畠山重忠顕彰事業では、献花式やパネル展、講演会等の開催、重忠給食のPR、絵本作成及び読み聞かせを行い、重忠公の事績や事績や人物像を顕彰するとともに、その時代の地域史について広く紹介することができた。 ○企画展等の実施回数 … 3回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	企画展等の実施回数	7回	渋沢栄一翁や畠山重忠公の企画展や講演会等を開催し、郷土の偉人に関する事績や人物像を顕彰することができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	郷土の偉人・渋沢栄一翁が肖像となる新一万円札の発行に向け、企画展やイベント等による情報発信に取り組むとともに、ゆかりの史跡等の整備及び公開活用を図った。今後も渋沢栄一翁をはじめとする郷土の偉人の偉業を伝える事業については、継続した取り組みを行う必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-2

<p>施策名</p> <p>深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>文化振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○文化財の調査・記録を実施するとともに、指定を通じ、保存・活用のための措置を講じる。 ○講座や展示会などの開催を通じて、文化財を活用しながら、歴史・文化の魅力伝えていく。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○文化財の調査、保存、管理と活用 ○埋蔵文化財の保存と活用 ○文化財建造物の保存と活用 ○文化財活用の推進</p>						
<p>指標名</p>		<p>無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>市内の無形民俗文化財の指定団体のうち、 後継者育成を行う団体の割合</p>		<p>92.0%</p>	<p>92.0%</p>	<p>92.0%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>92.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>92.0%</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>92.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>3</p> <p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>						
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続し、展示活用基本計画に基づき、保存と展示活用の両立を図る必要がある。 ・幡羅官衙遺跡の保存と活用を推進し、史跡指定地を公有化し、史跡の整備について検討していく必要がある。 						
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。 ・文化財施設の公開・活用は、ホフマン輪窯の一部公開に向け、映像・パネル等の展示素材の作成に取り組んだ。また、展示活用基本計画に基づき、飲食機能を備えた管理活用棟建設に向け、整備方針の検討を行った。 ・成果指標である無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合は、令和4年度と同じ92%を維持することができた。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事(耐震補強工事)の進捗を図るとともに、追加の補修工事の発注業務に取り組んだ。 ・幡羅官衙遺跡については、保存活用計画に基づき、史跡の公有化・整備を行うために関係部署との調整を行うとともに、整備基本計画の策定について検討を行った。 						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

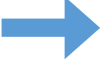
最重点事業名	日本煉瓦保存整備事業	担当課	文化振興課
概要	旧煉瓦製造施設の保存修理工事を引き続き実施するとともに、活用基本計画に基づき、施設整備に取り組む。		
令和5年度 の実績	<p>【日本煉瓦保存整備事業】</p> <p>旧日本煉瓦製造施設の保存修理工事に伴う国庫補助金の交付申請を行った。 ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事(耐震補強工事)を進め、追加の補修工事(煙突補強被覆等)の発注業務に取り組んだ。 ホフマン輪窯6号窯の一部公開に向けた映像・パネル等の展示素材を作成及び旧煉瓦製造施設駐車場の整備を行った。 ○旧煉瓦製造施設見学者数 837人</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	国庫補助金の交付申請件数	1件	国の予算スケジュールにより国庫補助金の交付申請を行った。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	旧煉瓦製造施設の保存修理工事については、文化庁及び埼玉県と協議を進め、耐震補強工事を発注し、順調に進捗を図れた。また、ホフマン輪窯6号窯等の展示・公開に向けた展示活用基本計画に基づき、保存と展示・活用の両立を図る必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
文化財活用事業	<p>指定文化財の適正な維持管理を推進するとともに、出土文化財や史跡等の公開機会を設け活用を推進する。</p> <p>○文化財企画展示会、発掘調査情報公開・現地説明の実施</p>	文化財の保護を図ることが第一であるが、文化財保護の理解を図るため、市民が歴史や文化財を身近に感じられる事業を実施するとともに、歴史や文化の継承を図る方策として様々な企画を継続して実施していくことが必要である。	文化振興課

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-3

<p>施策名</p> <p>文化芸術活動の振興</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>文化振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充する。 ○文化団体などの自主的な活動の推進・支援を行う。 ○市にゆかりのある美術品の収蔵と展示公開を進める。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○文化・芸術活動の推進</p>						
		<p>○地域における文化活動の推進</p>						
		<p>○市民文化活動の支援</p>						
		<p>○美術品の収蔵・展示公開</p>						
<p>指標名</p>		<p>芸術鑑賞や文化活動を行う市民の割合</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 目標値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった」と答えた市民の割合</p>		<p>18.7%</p>	<p>27.6%</p>	<p>31.2%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>32.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>18.7%</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>1</p>		<p>1(順調): 目標値に向けて順調に推移している 2(改善傾向): 基準値は下回っているが、前年に対して改善傾向にある 3(横ばい): 基準値に対し横ばい 4(悪化傾向): 基準値を上回っているが、前年度に対して悪化傾向にある 5(不調): 基準値も前年度の値も下回っている</p>				
<p>課題</p>		<p>・幅広い世代が参加できるような事業の企画、実施が必要である。 ・市民による文化活動の活性化を図るため、文化団体の更なる育成、支援方法の検討をする必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・おやこで映画鑑賞会や高校生企画展、和菓子作り体験教室などの事業をNPOを含む民間団体などと連携して実施した。 ・文化芸術事業を実施する団体と連携調整を図り、事業実施に向けた支援が行えた。 ・コロナ禍で文化芸術事業が縮小されてきたが、徐々に事業再開へつなげ指標でもある市民が文化に親しむ機会の割合が上昇した。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表

最重点事業名	文化振興事業	担当課	文化振興課
概要	市民が芸術文化に触れ、親しむきっかけを作るために、コンサートや企画展を開催する。		
令和5年度 の実績	【文化振興事業】 体験事業 ○伝統文化体験教室(3回) 鑑賞事業 ○文化公演ミュージカル ○親子映画鑑賞事業 ○企画展「高校生作品展」		
	指標名	実績値	指標別コメント
	文化芸術体験・鑑賞事業参加者数	1253人	体験事業は、申込者多数のため、開催回数を3回とした。鑑賞事業は、文化会館指定管理者との共催事業として実施した。各事業の参加者数は増加した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	文化振興事業の実施については、文化団体等、NPOを含む民間団体などと協働して効果的に文化振興を推進していくものとする。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
文化団体育成補助事業	市民文化活動の担い手として活動している市内の文化団体などに対する事業協力や支援を図る。 ○補助金交付団体数は、2団体であった。	自主的かつ主体的に文化芸術事業を実施する団体等に対する支援として、事業を実施した。	文化振興課

6 意見・提言まとめ

No.	施策名	総合評価	意見・提言(案)
I-1(1)	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育を充実させることで、就学してからの成長に良い影響を与えるため、今後も充実した幼児教育を怠りなく実施してほしい。 ・幼稚園教諭及び保育士の免許を両方持っているかたを任用することで、様々な形で人事異動が可能になるため、今後もそういった方を任用するようにしてほしい。
I-1(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標を同一の学年が3年間でどのように変化したのか分かる指標に変更するべきだと思う。 ・国の方針では、全ての子どもたちの学力向上を掲げているため、学力上位層を伸ばすことも視野に入れてほしい。
I-1(3)	郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市は小中学校に多くのALTを配置し、英語教育を推進している。海外の方と会って話をする直接的な学びは大切だと思うため、継続的に推進してほしい。
I-1(4)	時代の変化に対応する教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」及び「埼玉県学力・学習状況調査」がCBT化されるため、児童生徒がCBTの操作に慣れおくためにも、積極的にCBTの導入を推進してほしい。
I-1(5)	夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒の進路に関して、普通高校だけでなく農業高校や商業高校への進学等様々な可能性を考慮し、教員が保護者の考えに寄り添いながら、進路指導を行う必要があると思う。 ・中学校10校中1校については、事業所確保の課題から社会体験チャレンジ事業を実施できなかったとのことだが、事業所の確保を早急に行い、全校で実施できるよう努めてほしい。
I-1(6)	多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な児童生徒たちの支援を行ううえで、児童生徒の能力向上の成果を見定めることで、児童生徒の自立を促すことができると思うので、担当教員が児童生徒の状況を把握しながら今後も特別支援教育を推進してほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言(案)
II-1(1)	まごころと思いやりを育む教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市は他市と比較し偉人が多くいるため、それぞれの偉人にスポットを当てた教育を実施し、深谷の魅力を一層向上させてほしい。 ・不登校児童生徒の居場所として教育研究所に「フリースペースがお」を作ったとのことだが、不登校児童生徒の中には、家から出られず教育研究所に来ることができない児童生徒もいるため、地域にある公民館等児童生徒にとって身近な場所を活用して、不登校児童生徒の居場所の確保を検討してほしい。 ・成果指標によると、相談・指導の割合が低いことから、教員自身がはじめの発生しやすい、ストレスが起きやすい学級を作っていないか及び児童生徒同士のコミュニケーションを適切に介助できているかを見直し、どの教員でも児童生徒から相談を受けたい力になるような体制を作る必要がある。また、匿名性に対する配慮、秘密保持などの工夫が必要と感ずる。相談及び通報の方法を児童生徒へ分かりやすく提示し、事前に児童生徒とシミュレーションするなど、身近で相談しやすい環境を設置する具体的な取組を検討してほしい。 ・「学校に来られなくても、学習保障や社会性の育成が行われている」児童生徒数についても、今後調査が必要である。
II-1(2)	いじめ・不登校の防止	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
II-1(3)	生徒指導の充実	A	
II-1(4)	人権を尊重した教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在働き方改革が推進されているため、今後成果指標を設定する際には、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施回数について配慮してほしい。
II-1(5)	健康の保持増進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市の学校給食は、自校給食を行っており、市費の栄養士を任用する必要があり、給食費の補助を実施しているため、他市に比べて大幅に予算が削減される。無料以上のサービスを深谷市が行っていることを広く周知してほしい。
II-1(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活動を民間委託する取り組みが始まりましたが、中学校の生徒数の減少により部活動の存続ができず、複数の中学校による連合チームを作るケースもあり課題が多いと思う。 ・深谷市は部活動指導員を4名配置しており、全中学校において外部指導者を活用しているため、高く評価できる。

No.	施策名	総合評価	意見・提言(案)
III-(1)	信頼される教職員の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」において、授業研究や事例研究など、実践的な研修を「よくしている」と回答した学校の割合の目標値が100%であるが、令和5年度の割合は小学校で49.2%、中学校で60%と割合が低い。新任教員の質が下がる可能性があるが、学校も授業研究や事例研究などの研修を行っていない場合、児童生徒の学力は上がらないため、学校へ指導してほしい。 ・人事評価制度について、一般の教員に比べて、教頭、主幹教諭、養護教諭及び事務職員など、各学校に一人しかいない教職員の人事評価が高い傾向にある。比較対象である他の学校の一人しかいない教職員と比べて評価する考えが必要と思うため、公正な人事評価ができるよう学校へ指導してほしい。
III-(2)	学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の社会教育委員会協議の提言書にて、学校だよりやホームページ等を活用し、学校から地域へ情報発信することや学校運営協議会の協議内容を地域住民に公表することを提言しているため、一層の周知に努めてほしい。
III-(3)	子供たちの安全・安心の確保	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
III-(4)	学習環境の整備・充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
IV-(1)	家庭の教育力向上に向けた支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが高齢者の世代とふれあうことで、生き方や将来を見据える貴重な機会になるため、地域世代間交流事業については、今後も継続してほしい。
IV-(2)	家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の社会教育委員会協議の提言書の中でも、公民館職員、学校長、自治会役員及び青少年健全育成会役員などが集まる公民館運営審議会が地域学校協働活動推進員の周知が必要であると提言があったため、周知の強化をしてほしい。 ・学校応援団の活動について、今後も地域と連携した活動を推進してほしい。 ・「放課後子ども教室推進事業」について、がんばんルームの参加児童数が減少しているため、がんばんルームの内容を充実できるように取り組んでほしい。 ・がんばんルームの参加者数が減少しているため、平日放課後子ども教室と連携した取り組みを推進してほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言(案)
V-(1)	市民のニーズに応える生涯学習の支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の様々な事業の若年層の参加が少ないと感じるため、若年層が参加しやすい取組を検討してほしい。また、平日の夜や土日に講座を開催するなど、参加しやすい日程にするなど検討してほしい。 ・点検評価表の成果指標の評価について、基準値を上回っているが、令和4年度の実績と比べて下回っているため「4」である。しかし、総合評価は「A」というのは内容がそぐわないと思うため、様式の見直しについて検討してほしい。 ・深谷市公民館条例第4条及び深谷市公民館条例施行規則第3条に、市内公民館職員の資質向上を図る研修の実施について明記されているため、研修等を実施してほしい。 ・深谷市民まちづくりアンケートにおいて、回答した市民の割合を目標値としているが、このアンケートの対象者、年齢、性別、人数がわからないと実績及び目標値についての成果指標の評価が難しいと思う。 ・市内12公民館全室の1時間ごとの平均稼働率を成果指標としているが、稼働率が低い印象を受けた。近隣の市町村では、1時間ごとの平均稼働率ではなく、午前、午後及び夜の時間帯で平均稼働率を算出している。成果指標をわかりやすいものに検討してもよいのではないか。 ・「深谷子ども本の会」という主に読み聞かせを行う団体があり、平成30年に文部科学大臣賞を受賞している。子供たちに見聞文学のすばらしさを伝える良い機会となるため、今後も支援をしてほしい。 ・4か月健診等を受診する子供を対象にしたブックスタート時に積極的に話し会についてPRしたことにより、参加者が増えたことは非常に良い傾向であると思う。ブックスタート、幼稚園又は保育園、小学校等により多く繋げていき、読書量を増やしてほしい。
V-(2)	生涯学習施設の整備・充実	A	
V-(3)	図書館サービスの充実	A	
VI-(1)	多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
VI-(2)	生涯スポーツの推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に向けた情報発信を工夫し、若い世代のスポーツ推進に努めてほしい。
VI-(3)	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合体育館は収容人数が多く、大会等の予約が途切れないため、改修工事を行う際は、計画的に取り組んでほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言(案)
VII-1(1)	郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一翁の魅力や業績を今後も発信してほしい。 ・郷土にゆかりのある偉人を生かした取組を今後も積極的に実施してほしい。
VII-1(2)	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	A	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市で実施している後継者育成事業に対する積極的な支援を今後も推進してほしい。
VII-1(3)	文化芸術活動の振興	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、渋沢栄一翁、中の家及び尾高惇忠の生家などを総合的に盛り上げるために本庄市や熊谷市と協力して文化庁が認定する日本遺産に申請することについて、検討してほしい。
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の適正規模について12学級から18学級と国が示しており、小学校は1学年2学級以上、中学校は1学年4学級以上が適正であると示されている。児童生徒数は減少しているため、小・中学校の適正規模適正配置について検討していく必要がある。 ・学校教育においては、市費により多くの種類の会計年度に用職員を活用している。可能な職員については、会計年度任用職員の達成目標を設定し、責任と実績を伴う働き方にされたい。

7 むすびに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である第3期深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

令和6年度の点検評価では、第3期深谷市教育振興基本計画の27施策全てを対象に、令和5年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、27施策中、22施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価しましたが、成果指標の実績値が目標値に達しなかった施策のうち5施策に対して総合評価「B」（あまり進んでいない）となりました。

今後も、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきながら、第3期深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に教育行政を推進していきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

【点検評価報告書公表までの経緯】

年月日	件名	内容
令和6年 8月21日	第1回点検評価会議 (集合形式)	点検評価報告書(案)の説明 学識経験者である鎌田義夫様、松本浩様 による協議
令和6年 9月11日	令和6年教育委員会 第9回定例会	点検評価報告書(案)の説明 教育委員による協議
令和6年 9月11日 ～9月25日		教育委員から意見・提言の受付期間
令和6年10月 4日 ～10月18日	第2回点検評価会議 (書面形式)	学識経験者である鎌田義夫様、松本浩様 による、点検評価報告書(案)の確認
令和6年11月 6日	令和6年教育委員会 第11回定例会	点検評価報告書(案)の議決
令和6年11月25日	公表	

令和6年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 令和6年11月
編集 深谷市教育委員会
〒366-8501
深谷市仲町11-1
TEL 048-574-5811
FAX 048-574-1744

